

野村総研では英オックスフォード大学との共同研究により、2012年に労働政策研究・研修機構が公表した日本の職業601種のうち、人工知能(Artificial Intelligence:AI)やロボットで代替可能かの研究結果を2015年に報告している。人口減少に伴う深刻な労働力不足が予測される日本において、AIやロボットで補完できるかの数値であるが衝撃的ではある。三菱総合研究所によるAI普及により2030年には国内で雇用される人の数が大幅に減少する試算が、今年の1月にNHKクロージアアップ現代で放送された(三菱総合

「労働人口の49%が

人工知能で代替される？」

情報広報部副部長

藤井 美穂

研究所試算)。工場の生産現場、会計事務、建設業界などで740万人の雇用の減少が見込まれ、システムエンジニアなどAI開発領域の専門職の増加と差し引きすると、240万人の雇用減少となるそうだ。

野村総研の報告では、601種の職業中代替可能性が高い100種の職業と可能性が低い100種の職業が選択されている。ドキドキしながら医師がこの中に入っているかを見た。医療分野では医師、歯科医師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、柔道整復士、はり・き

ゆう師などが、音楽家、映画監督、研究者、教育者、デザイナー、カメラマン、経営コンサルタントなどとともに、AIやロボットで代替される可能性が低い分類に入っていた。抽象的な概念を整理し創出するための知識が求められる職業、他者との協調性や他者の理解、説得、サービスが必要な職業は将来においても人が担う必要がある訳だ。

AIは世界中で急速に広がり、ある研究で「50%の確率で人間と同レベルの機械知能を創り出せるのは、何年になると思うか？」の集計で2040年から2050年だったとい

う。人の神経細胞の伝達スピード毎秒100メートルに比してコンピュータのシグナルは光速であり、加えて膨大なデータを読み込み自ら学習していくという、人間の脳を模した学習システムであるディープラーニングにより、グーグル開発AIが世界最強の韓国囲碁棋士に圧勝したこと、AIの進化スピードが予測を遥かに超えたことで世界に衝撃が走った。

AIが経営戦略や人事にも関わる時代が近づいている。日立製作所では、AI導入で仕事の生産性を上げることができるとか実験が進められている。社員に職場内で会話の時間をもっているか、表情が笑顔であるかなどをセンサーでモニタリングし、AIから部署の上司と話す時間をとった方がいいなど働き方を提案されるという。これにに応じて会話が社員間で行われるようになり、

良好なコミュニケーションにより仕事の効率が上がるようになったとのことだ。

オックスフォード大教授で人間原理、人間の在り方を研究する哲学者ニック・ポストロム氏は、AIの教育について警鐘を鳴らす。超知能はいずれ人間が閉じ込めておいた枠を飛び出すだろう。たとえそうであっても、本質的に人間の味方であり安全な超知能をもつAIを創る手法が重要と。そのためにはコンピュータ統制システムの定義の中に、大切にしている全てのものが含まれていないことを確認しておくなくてはならない。ミダス王は触ったものがすべて金になるように願ったが、娘も食べ物もすべて金になってしまおうという神話の教訓を思い出さなければならぬ。AIやロボットと共存していく社会のなかで、人間の価値とは何か、AIでは代替されない、人であればこそ可能な共感やコミュニケーション力を駆使しての医療を行っているか、を常に心に刻みながら生活していくことが求められる時代に突入した。

今年の全国医師会勤務医部会連絡協議会が、10月21日(土)に北海道医師会担当のもと札幌で開催予定である。勤務医比率全国一の広域な北海道ならではの課題を少しでも明確にできるようなプログラムを企画中であるが、救急搬送の時間・距離の短縮に期待されるメデイカル・ジェット導入や、地域の医療過疎を解決するためにAIを利用した保健・予防の手段なども盛り込む予定である。多くの医師に参加していただき、地元の医療課題の解決につながる場としたいと考えている。